

第 3 章

合同防災キャンプ 2017

参加者感想

■宿泊研修全般を通じて学んだこと、感じたこと

<p>一番印象に残ったことは、「現地のみなさんの復興に対する想い」であった。視察先でお会いして話を伺った全ての方々は復興に向けて全力を尽くされていた。亡くなられた方々への想いや、生きている周囲の方々と自分との関係があるから今を懸命に頑張れるのではないかと思った。</p>	生徒
<p>実際に被災地に来てみると、想像していたよりも日常的な光景が広がっていて、「僕は本当に被災地に来ているのだろうか。」と思うほどであった。しかし、ところどころにある更地やがれきの山、時々、忙しく動く重機も見られ、まだ完全な復興には至っていないのだと改めて感じた。</p>	生徒
<p>合同防災キャンプの目的は、被災地の方々との交流活動を通して、被災した方々の意見を参考に、自分自身の行動力を高めることだと認識している。今回、被災地の方々から「災害時のマニュアルは大事で、常に更新し、整備し、防災力を向上させる。そして、決して油断しない、絶対諦めない。」という意見を伺った。この意見は、自分なりの行動力とは何かを考え直すきっかけとなった。</p>	生徒
<p>今回、合同防災キャンプで多くの事を学んだことで多くの人を助けたい、助けなきゃと思ったが、消防職員の方の「まずは自分の命を守ることが一番大切」という言葉で、原点に戻れた気がした。</p>	生徒
<p>私たちが生きている間に絶対にあるといわれる首都直下地震等に対して、被災前に何をしておくべきなのか、そして被災時にはどのような行動をとればいかなど、具体的なことを学び体感する機会となった</p>	生徒
<p>合同防災キャンプの目標を、「災害時の行動、緊急対策について学ぶ」に設定していたが、様々な講義を聞き、十分に学ぶことができたと思う。また被災地を訪れて見たことで、改めて危機感を抱くこともできた。東北では地震があってから様々な対策を行っているが、首都直下地震があるといわれる今、関東でも同じような認識・備えの意識を持たなくてはならないと感じた。</p>	生徒
<p>東日本大震災から6年半経って、少しずつ忘れつつあった地震や津波の恐ろしさを再認識した。思い出したくないあの日の出来事を、被災地の方々が、私たちに話してくれた意味をよく考えて行動していきたいと思った。</p>	生徒
<p>避難所では、私たちのような若い力が非常に役に立つ。防災士としてリーダーとなり、意見の取りまとめなどをすることが、避難所におけるコミュニティづくりに貢献することを学んだ。</p>	生徒
<p>防災意識を高め、本当に災害が起きた時、率先して動けるようにしておきたい。そのためには、防災に関する知識・技術を持つことが必要だと思う。そして、将来、目標とする看護師となった時、二次災害等が起きても病院内でリーダーシップをとって動けるように心掛けていきたい。</p>	生徒
<p>「人」という字は、人と人が支え合っていてできているとよく聞かすが、研修を通して、本当にそうであるべきだと思った。被災地の方々は、「自分たちのことだけを考えるのではなく、町のため、他の人のため、自分が何をすべきかを考えた。」と言っていた。幼い子から大人までがそう思っている被災地の方々の「温かさ」を感じ、東京での自分の生活を改める必要があると思った。</p>	生徒
<p>多くの先生方による講話を通じて、家族の大切さ、避難場所や連絡方法の取り決め、今できる防災対策等、改めてその重要性を認識し考えた。</p>	教員
<p>自身、東日本大震災の時に何も手助けをすることができなかった。その後は、テレビや新聞等で被災状況を見て知ることしかなかった。しかし被災地の方の前を向き、生きるための強さを感じ、自分も何かできないかという思いで参加した。率直にいうと参加してよかった。教員として、児童・生徒に命の大切さを伝えていくために必要な多くのことを学べた。日本は過去の自然災害から多くのことを学んでいるが、この3.11を機に、教育における防災・減災教育が発展していけばよいと感じた。</p>	教員

<p>つらい記憶は早く忘れたほうがいいのではと思っていたが、忘れてしまっては被災地の方々の声は周りに、そして未来に届かない。二度と震災等による不幸が起こらないように、そのための対策を継続して行うためにも、忘れずに伝えていかなければならないことがあると実感した。</p>	生徒
<p>3月11日の災害がいかに大きなものだったか、災害時のその場、その時の判断と行動がどれほど大切であったか、その一瞬の選択によって何が救われて何が失われたのかを実感し、その本当の恐ろしさに近づけた。</p>	生徒
<p>百聞は一見にしかず。正にこの一言に尽きると思った。どれだけ事前に勉強しても、知識を得ることしかできないが、実際に被災地へ行き、自分で見ることで得られるものは比べられないほど多かった。もちろん事前に勉強することも非常に大切ではあるし、実際に現地へ赴くのは簡単にできることではないので、自宅や学校においても防災の勉強をしていきたい。</p>	生徒
<p>高校生や大学生といった若い力は避難所で貴重な戦力となり、被災した人が避難生活を安心・安全に送るためには欠かせないものだ実感した。実際に避難所生活になった時は、率先してこのような活動を行って、復旧・復興に貢献していきたいと思った。</p>	生徒
<p>津波の映像や画像を見て、自分なら、きっと生活すら嫌になって、どうしようもなくなるのだろうと感じた。何かを失ったわけでもない、被災していない自分ですらそう思うのに、何もかも失ってしまった被災地の方々は、「前より良い街にする。」「心まで壊されてたまるか。」と立ち上がって前を向き、実際、とても良い街にしている、本当に強いなと思った。このように、被災地の方々の強い心と、みんなで一丸となって進んでいくことのすばらしさを学んだ。</p>	生徒
<p>多くのことを体験して学んだが、最も印象に残ったのは、正確な判断の重要性。震災時は正確で素早い判断や決断が必須で、判断ミスによって命を落とす可能性が極めて高くなると、いろいろな方々の話を聞いて感じた。震災が起きて自分が被災するとパニック状態になってしまうと思うけれど、少しでも冷静で正確な判断や指示を出せるように心掛けたいと思った。</p>	生徒
<p>震災を経験した方のお話を現地でしていただくことは、東京で調べたり講義を受けるものとは全然違った。皆さん自分の言葉で話して下さるので、震災を体験していない私にも想像でき、聞く話全てが深く胸に刻まれた。</p>	生徒
<p>写真や映像で津波による被害の様子を見たが、想像のレベルをはるかに超えていた。夢も未来も宝物も一瞬でなくなっていた。みんなで取り戻そうとしても子供たちの命や元の家など、取り戻せないものが本当にたくさんあるのだと改めて気付かされた。</p>	生徒
<p>合同防災キャンプに参加しなければ、東北の被災地の現状を、そして復興の状況を知る機会はなかったと思う。被災地で出会った方々から伺ったお話は、どれもとても強く心に残った。また、どんな時でも諦めないことが大切だと強く感じた。</p>	生徒
<p>3.11を忘れず、つなげていくため、私自身が多くの人たちに話していくことが大切だ。今回、私が経験したことや聞いたこと、感じたことを多くの人に伝えていけば、少しでも変化は得られると思う。だから多くの人に伝えていきたい。</p>	生徒
<p>戸倉中学校の中学生が、震災時に人工呼吸や心肺蘇生を行ったと聞いた。自分も救命講習のライセンスを取ったからには、いざという時、行動に移さないといけないと感じた。</p>	生徒
<p>石巻市の二つの小学校の被災状況から、管理職は子供たちの命を守るために日頃から危機管理について考え、情報を多くインプットし危機発生シミュレーションを常に行うこと、また、情報の中から短時間のうちに的確な判断と明確な指示をする力が求められていることを学んだ。そして何より、校内の防災組織体制の強化と、教職員、保護者や地域との共通理解、共通実践が重要であることを学んだ。</p>	教員

<p>事前に大切な人と待ち合わせ場所（被災時の避難場所）を決めておくことも大切だと学んだ。きっと会えると信じて待つことが大事だと思った。</p>	<p>生徒</p>
<p>合同防災キャンプを通じて、災害の発生するメカニズムや災害に応じた対処の仕方を学んだ。自然に起きる地震や竜巻、洪水等を防ぐのは不可能だが、火事の発生や災害の被害を最小限に抑えることはできると思うので、そのための課題を考えるべきだと思った。</p>	<p>生徒</p>
<p>特に印象に残ったのは、旧大川小学校であった。私はこの災害を教訓として、自分が住む周囲の環境、さらには東京都とはどのような地域で何が必要なのかということについて、大学に進学して更に深く考えていきたいと思った。今後、防災について更に学んで行きたいと思う三日間だった。</p>	<p>生徒</p>
<p>私が一番驚いたことは、津波によって海が50年若返ったということだ。津波は人々に大きな悲しみを与えたが、違う側面もあるのだと思った。若返った海によって、漁業など被災地の産業が震災前より発展していくことを望む。</p>	<p>生徒</p>
<p>防災士になるということは、自分が助かる可能性を上げてまで、他の人を助け出す覚悟のいるものだと思っていただけ、自分の命を他の命を助けるために使うのは正解ではないと知った。逆に、自分が助けられる立場になった場合、自分の命のために他の人の命が使われてしまうことになるので、自分の身は自分で守ることが重要だと再認識できた。そういう意味で、自助は共助に直結するのだと感じた。</p>	<p>生徒</p>
<p>中には目を背け、耳を覆いたくなるような光景や話もあった。しかし、「誰か」が3.11のことを知り、記憶し、後世に伝えなければ何も変わらない。人々から忘れ去られてしまう。多くの悲しみが生まれたあの時のことを。私は今回の宿泊研修を通じて、自分が「誰か」になりたいと思った。3.11を風化させないために。</p>	<p>生徒</p>
<p>それぞれの方がいろいろな経験を交えて話して下さった言葉の一つ一つが、メモをとっていたノートを見ると鮮明に思いだされ、私が自分の周りの人に伝えていけなくてはならないのだと強く感じている。何十年後に、「東日本大震災って何？」という人がいないように、体験した方たちのお話を伝える“第2の語り部”になりたいと思う。事前研修で、佐藤敏郎先生が話して下さった「防災とは、ただいまを必ず言うこと。」という言葉が、今も強く心に残っている。</p>	<p>生徒</p>
<p>今回の合同防災キャンプで、今まで常日頃思っていたことや考えていたことが、全て正しいことではないということに驚き、考えるきっかけとなった。避難訓練のあり方や集団行動、避難所の運営など、課題は山積している。マニュアルだけでは解決できないことがたくさんある中で、そのイレギュラーを想定し、伝えることの難しさ、動かすことの大変さ、知識のなさをどのように改善していけばいいのか、様々なことを考えることができたと思う。</p>	<p>教員</p>
<p>被災された方々皆が、人命優先、人命尊重を強く訴えていたこと。人命としては、第一に自らの命、次に周囲（家族、生徒、児童、地域）の命を守ることが共通だった。また、次世代に伝えるべく教訓を風化させない意思と努力を、個人単位、学校や企業等の様々な組織単位でしっかり継続していることを学んだ。</p>	<p>教員</p>
<p>風化させない強い意思、そして誰かがやってくれるのではなく意識して自らができることを、一人一人がまた南三陸全体として取り組んでいる姿や光景を見ることができて心を打たれる思いである。“百聞は一見にしかず”、南三陸の土地に行ったことで、自助・共助・公助、三つの柱の大切さを学んだ。</p>	<p>教員</p>
<p>いつこの都道府県が被災地になるとも分からない「災害の世紀」において、必要な知識を習得し、経験を積み、特に指導的な立場にある者は、災害時に適切な判断ができる能力を身に付けておくことが重要であると感じた。</p>	<p>教員</p>

■宿泊研修全般を通じて学んだことから、今後取り組んでいきたいこと

<p>これから先、今までにないほどの大きな地震が起きた時、自分にできることは絶対あるから、「誰かがやってくれる」ではなく、「自分がやらないと誰もやらない」と思って行動していきたい。</p>	生徒
<p>何かあった時に考える最悪なことを想定して動かないと、想定より最悪の事態が起きた時には何も考えられなくなると思う。冷静に頭を使って想定していきたい。</p>	生徒
<p>今まで「地震なんてそうそう起きるものじゃない」と思っていたが、今の日本ではいつ大規模な災害が起きてもおかしくないことを知って驚いた。これからは災害に備えて家の家具を固定し、普段の避難訓練の時も気を抜かず集中して取り組みたい。</p>	生徒
<p>私は次のことについて取り組んでいきたい。①防災キャンプで学んだこと、感じたことを他の人にも伝えていく。②非常持ち出し品を揃える。③自ら、自分の住む地域のことを知る。④医療等の専門知識をどんどん勉強していく。⑤日本だけでなく海外の人たちとも防災について話してみる。</p>	生徒
<p>現地であったことや聞いたことなどを、いろいろな人に伝えていきたい。また、ボランティアや防災活動に積極的に参加していきたい。</p>	生徒
<p>ボーイスカウトをやっている中で、その中でいろいろなことに取り組んでいきたい。例えば、防災についての活動や話し合いがあった時被災地に行ったことのある者として、そして防災士として、自分が経験したこと、被災した方々のお話、講師の方々のお話を語りたい。また、活動の中で様々な意見を出し実行していきたい。</p>	生徒
<p>今までは家族と決めたところに避難すれば大丈夫だと思っていた。だけど、話を聞くうち、ここに逃げたら大丈夫とか考えていてはダメだと教えていただいた。私が実際に自然災害に遭った時、苦しくてもまずは「今」、そして「明日」まで生き延びることを考えていこうと思う。そうすることで少しでも助かる気がする。防災士の資格を取ったら、一人でも多くの人を助けたい。少しでも力になりたいと思う。</p>	生徒
<p>東北で多くの方々に聞いた話を周りに伝え、改めて震災はこういうものだと思ってもらえるようにしたい。また学校では避難訓練を大切に、今までよりも厳しく訓練していきたい。今度は、熊本など九州へ行き、ボランティア活動をしていきたいと思った。</p>	生徒
<p>今回の体験を生かして、積極的に地域や学校のボランティア活動に参加しようと思った。まずその前に、このことを家族と話し合い、「万が一」に備えていきたい。そして、今回感じた気持ちと実際のことをたくさんの人に伝えていきたい。</p>	生徒
<p>本当に災害が起きた時には瞬時の判断が重要だと思った。その時に備えて、何通りも考えられるように想定しておくことが大切だと思った。</p>	生徒
<p>自助・共助・公助。防災士として期待される役割を担うべく、日常から防災意識を強く持ち、的確な避難指示や避難場所でのリーダーシップが発揮できるよう防災学への理解を深めようと思う。また、この東日本大震災での事実が忘れられないよう、身近な人や学校、生徒に伝えていき、防災意識を高められるような活動をしていく。</p>	教員
<p>所属する学校で、生徒や教職員等に今回学んだことを伝えることや、地域の人とも協力して減災対策を進めることができれば良いと思った。また、今回の合同防災キャンプに参加して、「日頃の訓練の大切さ」を改めて実感するとともに、「その場の判断力・決断力」を養う取組も行っていくべきだと思った。</p>	教員
<p>災害時の学校の役割と命令系統、準備しておく必要のあるものなどを学校で事前に決めておくため、職員会議時に意思統一を図っていきたい。</p>	教員

<p>たくさんの方々に言われた「ここで学んだことを多くの人に伝える。」誰もがいうことだけれど、とても大切なことだと僕は思う。そして僕はこれからの未来のために、次の世代の子供たちに、この経験を伝えたいと思う。僕の将来の目標は中学の教師になること。友達関係や親との関わり方、恋愛、そして高校受験など、短い3年間でとても大切なことを学ぶ中学校時代に、僕は東日本大震災という大災害が過去に起き、今ではこうなっている被災地にこんな出来事があったことを伝えていきたい。</p>	生徒
<p>自分を守るためには、知識が大切だと思っていたので、防災に関する知識をたくさん手に入れたい。今、自分はとても恵まれた環境にいるので人の助けをあまり必要としたことはないが、全国には、人の助けを必要としている人がたくさんいることが分かった。自ら進んで、そのような人の役に立つボランティアなどに参加していきたい。また、今回無事に防災士の試験に合格したので資格を生かしていきたい。</p>	生徒
<p>地震についての知識を深めていくだけでなく、自分の住む場所には影響がないと考えられる津波や洪水等の災害についても勉強したいと思った。なぜなら、今回の研修で絶対安全ということは絶対にないと学んだからだ。災害がいつ来るか誰にも分からない。その時、何をしているか、どこにいるか、その時になってみないと分からないので、何が起こっても対応できるように、いろいろなことを勉強したいと思った。また、日頃から人間性を高め、いざという時に決断する力、人々を引っ張っていく力を身に付けたいと思う。</p>	生徒
<p>このキャンプで、ボランティアをもっとたくさんしたいと思い、海外にも興味があるので、国際ボランティア団体に入った。国内のボランティアなども探して、これからもっと積極的に参加していこうと思う。</p>	生徒
<p>防災士の基本、地域の防災リーダーとしての自覚や自助、共助、公助を大切に、地元地域の防災活動などにも積極的に参加していきたいと思った。</p>	生徒
<p>学校等の避難訓練に真剣に取り組みたい。今回私が学んだこと、感じたことを、クラスや学校みんなに伝えたい。そして今、被災された方々がどんな気持ちで復興に取り組んでいるのか、日本人の一人として一度は被災地を訪れて感じて欲しいと思った。</p>	生徒
<p>自分たちの訓練は、ただ、机の下に入って、揺れが収まったら校庭などに移動するだけ。今回、門脇小学校で体験した避難と、訓練の仕方が全然違うと思った。いつ何がどのように起こるのかわからないので、真剣に取り組んでいかないといけないことを、学校みんな、家族、地域の人にも伝えていきたい。</p>	生徒
<p>自分の学校は日頃からの備えや避難訓練には足りない点があると思うので、担当の先生に合同防災キャンプで学んだことを話し、見直すことにつなげてもらおうと思う。</p>	生徒
<p>私がこの三日間で見たこと、聞いたことをしっかり伝えていくことが大事だと思う。被災地に行くことはなかなかできないことだと思うので、この経験を学校の人、家族に伝えるだけでなく、近所の人にも伝えていきたい。そしてボランティアには積極的に参加していきたいと思う。なかなか自分からボランティア活動に参加することはできなかったが、合同防災キャンプを通じて自分から何かやろうと思えるようになった。少しでも被災地のために何かできたらいいと思う。</p>	生徒
<p>自分が見聞したことを周りの方々に伝えたい。とても十分とは言えないと思うが、語られることによってしか存続しない記憶があることをこの合同防災キャンプで実感できた。また、避難訓練の折などには今回のことを思い出し、なるべく想像力を持って臨みたいと思う。</p>	教員
<p>避難訓練の充実やボランティア活動の紹介など、学校内で紹介する機会を作り、生徒に伝えていきたい。また、生徒だけでなく教員についても同様に意識を変えられるように講習会を開き、見聞を深めていただきたいと思います。学校全体の協力が前提として必要で、理解してもらうことがまず一歩であると思う。</p>	教員

<p>震災後、人の少なくなった自分の町を活気づけたいと思い、特産物のホヤを広めるために頑張っている人がいて、石碑を建てて、この大震災を忘れないようにと願いを込めている人もいることを知った。私も今後このような震災が起きた時に看護師になって被災者を少しでも助けるため、夢に向かって努力しようと思った。</p>	<p>生徒</p>
<p>避難訓練等も、もっと意識を持って自分の命を一番に考えて訓練に臨みたいと思った。自分たちはどれだけ楽な生活をしているか、今回受け取った宮城の方々の気持ちを大事にし、これからもいろいろなことに挑戦したいと思う。</p>	<p>生徒</p>
<p>自分の周りの人に合同防災キャンプで見て聞いたことを伝え、東京で災害が起こってしまった時、正しい行動をとることができるようにすることが大切だと思う。そして、自分の周りの人全員を助けられるように万全な体制をとれるようにしたいと思う。</p>	<p>生徒</p>
<p>津波が来た時に山側に住んでいた人よりも、海側に住んでいた人の方が事前の対策をしていたことにより、助かっていると聞き、日頃の避難訓練がとても大切だと思う。今後、しっかりとやりたい。</p>	<p>生徒</p>
<p>より多くの防災の知識を身に付けていきたい。また、私が経験したことや聞いた話を多くの人に伝えていきたい。家族や友だちなど、身近なところから始めて、たくさんの人に伝えられたらと思う。また今回学んだ備えを実行していきたい。ただ知っているだけではあまり意味がないので、家具の固定などを見直して改善していきたい。</p>	<p>生徒</p>
<p>具体的に災害が起きた時どうするのか、準備・対策等を考えていくことに取り組みたいと思う。特に我が家は古く震災等に耐えられないだろうと思うので、防災グッズの設置や家具の固定など、本格的に考えてみようと思った。</p>	<p>生徒</p>
<p>学校は、避難場所になっていることが多い。避難訓練も大事だが、受け入れ側としての訓練もしておく、いざという時、役に立てるのではないかと感じた。</p>	<p>生徒</p>
<p>地域の防災活動や学校での避難訓練に参加するとともに、防災士というリーダー的な役割を持っていることを自覚し、合同防災キャンプや事前研修、事後研修で学んだことを周りの人々に伝えていけたら良いなと思った。</p>	<p>生徒</p>
<p>私は今回の合同防災キャンプで学んだことがたくさんあった。その中でも取り組んでいきたいことは二つ。一つ目は地元の方と連携すること。志津川高校の生徒さんに聞いた話で、地元の方との協力が不可欠であった。だから地元の祭りや催しに参加し、連携を深めたいと思う。二つ目は避難所運営の際の役割決め。実際に起こってしまうと混乱が生じ、役割が分からなくなり避難者に混乱を与えてしまう。だから高校で役割を先に決めておきたい。</p>	<p>生徒</p>
<p>親と話して避難ルートや集合場所を決め、備品を揃え、しっかり確認すること、自分の町をよく知っておくことなど、様々なことを“具体的に”考える。学校の避難訓練の時に、少し時間をもらって今回学んだことをみんなに伝えていけたらと思う。</p>	<p>生徒</p>
<p>生徒に対し自らの生命を尊重し、人命を最優先することの重要性を強く理解させること、さらには災害時には乳幼児、高齢者、障害者などを援助する存在になるべく指導していくことが大切だと分かった。総合的な学習の時間などにおける防災教育により指導していきたい。また、今後、生徒が様々な年齢や立場の人たちと協力して災害ボランティア活動等に関われるように、協調性や社会性、判断力を養う指導を行っていきたい。</p>	<p>教員</p>
<p>共助の精神から、高校生は被災者を助ける役割も今後担う必要がある。自分自身の命を守ることは第一としつつも、他者を助けるためにどのような行動をするべきか、教師として指導できればと思う。</p>	<p>教員</p>